

# 活動事例紹介 美馬薪生産組合

## 薪の需要を開拓し、広葉樹の有効活用化を図る！



クヌギ丸太

### ○ 活動の経緯と目標 ○

吉野川北岸の阿讃山脈にはアカカシやイヌシデ、クヌギ、コナラなどの広葉樹林帯が広がり、かつては生活に欠かせない薪やしいたけ原木の供給源としての役割を担ってきましたが、近代化により燃料として使用されなくなると、次第に放置されるようになり、いわゆる藪となる山が増えてきました。

そこで、広葉樹の資源を活用し里山を再生しようと、美馬森林組合の有志が復活させた薪の加工・販売事業を引き継ぎ、広葉樹林の整備と薪の品質向上や販売先の開拓を目指し、「美馬薪生産組合」を設立し、平成25年度から本交付金を活用した取り組みをスタートさせました。

### ○ 現在の活動内容 ○



副代表 中東 利正さん

美馬薪生産組合は、現在も順調に薪の加工・販売を行っており、主にピザ釜に利用する薪材を県内及び香川県高松市の飲食店に販売しています。最近では薪ストーブ用薪材の需要も増えてきていますが、やはり年間を通じて一定量を使ってもらえるので飲食店が主要な販売先となっています。薪としての品質（火力、火持ちの良さ、燃焼時の静かさ）を考え、樹種はクヌギに限定して生産しています。

交付金活用時は、広葉樹の伐採や集材作業も美馬薪生産組合のメンバーが行っていましたが、伐採や架線での集材作業には危険が伴うため、現在はクヌギの伐採と集材はメンバー以外のプロの方に依頼しています。

メンバーでの作業は、薪置き場で4mの原木を 適当な長さに玉切りし、薪割り機で割って、束にします。この薪束を1年半以上乾燥させてから出荷しています。



薪割り機

### ○ 交付金終了後の活動資金について ○

交付金の終了後も薪を売ることによって、その代金で広葉樹林の整備費用をはじめ、薪の加工や配達にかかる経費、人件費をまかなっています。

交付金活用時に資機材として購入した薪割り機は今も活躍しています。

現在の販売先は20カ所程度、年間生産量は約100トンですが、今後もコンスタントに薪の販売ができるようこの活動規模を維持していきたいと思っています。

### ○ 今後の活動について ○

質の高い薪を安定して供給することで、ピザ等を提供する飲食店にも喜ばれ、安心して薪を使ってもらうことができます。

今後もエコ燃料である薪を流通させ、幅広く使ってもらうことで、身近な里山の恵みを知ってもらい、みんなで里山を大切にしていければと考えています。



ストックされた薪束